

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや ちくさ

題字 黒野清字

名古屋千種ロータリークラブ
承認 1982年 8月24日
例会日 火曜日 12:30
例会場 愛知厚生年金会館
事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
会長 西川豊長
幹事 中山信夫
会報委員長 西尾正巳

No. 43

築け未来を 行動力と先見の眼で

BUILD THE FUTURE WITH ACTION AND VISION

1996~97年度 RI会長 ルイス・ピセンテ・ジアイ

きょうの例会

第716回 平成9年6月17日(火)

新入会員歓迎夜間例会(松楓閣にて18時より)

先週の記録

第715回 平成9年6月10日(火)曇/晴

- ◇ “それでこそロータリー”
- ◇ お誕生日祝福
小杉君(6/11)、魚津君(6/11)
- ◇ 出席報告
会員 66(65)名 出席 47名
出席率 72.31%
前々回 5月27日(修正出席率) 95.45%
- ◇ ビジター紹介 IshofRC Tiger Holme's 君 他4名
- ◇ ニコボックス
紙面の都合上次回掲載させていただきます。
- ◇ 中山幹事報告
 1. 本日例会終了後、現・次年度理事役員会を開催致しますので、現・次年度理事役員の方は2F橋の間にお集まり下さい。
 2. 次回例会は、松楓閣にて午後6時より夜間例会を、当日例会終了後、臨時総会を開催致します。昼間の例会はございませんのでお間違いのないようご出席下さい。
 3. 1997~98年度ロータリー手帳が来ておりますのでお帰りにお持ち下さい。
- ◇ バナー贈呈
フートロードデールRCのサムエル・フレア君に当クラブバナーを贈呈しました。
- ◇ 西川会長挨拶
本日は、唯今親睦委員から報告されたように、アメリカフロリダからロータリアンがビジターとして当クラブに来られました。
そこで、私はアメリカの火星探査機「マーズ・バスマイニング」が来る7月4日の独

立記念日に、いよいよ火星に軟着陸するというお話をいたしましょう。

火星(マーズ)は、昨年夏NASA(米航空宇宙局)が、「生命の痕跡らしいものを発見した」と発表したが発端となって、がぜん世界中の関心が高まったのであります。

ここに、中日新聞6月8日サンデー版があります。この写真が、いん石の電子顕微鏡写真で、その中央部に見えるチューブ状のものが、火星の生物化石の可能性があるとみられています。その長さはわずか0.0001ミリで、地球上の細菌よりはるかに小さいのですが、形が地球微生物の一種によく似ています。

この火星の生命体と思われるものは、火星から1万3000年前に飛来した「ALH84001」と呼ばれるいん石から見つかったのであります。

今度7月4日火星に軟着陸する探査機は、1996年暮れに打ち上げられたもので、バイキング号以来21年振りに軟着陸するものであります。火星は現在低温で大気の薄い砂漠の惑星ですが、もともとは温暖で水と大気に富む環境だったと考えられており、生命が誕生した可能性があります。

では、なぜ今火星の探査をするのか。

それは、火星で生命体が誕生したことが証明されれば、宇宙において生命の誕生はそんなに特別の現象ではなくなります。これは地球人類にとって、大きなターニング・ポイントになるでしょう。

生命は、一つの太陽系の二つの惑星だけでなく、広大な宇宙のどこにでも誕生することになります。

こうして、原始生命の微化石を見つけて、進化の過程を理解することができるのも、火星探査の大きな目的の一つでもあります。

火星生命から地球の生命起源や進化の証明ができることになります。

7月4日アメリカ火星探査機軟着陸の成功を祈ります。今日おいでのアメリカロータリー

アンのために。また、全地球人類のためにも。
さらに、まだ見ぬ地球外生命体のためにも。

◇講演

“五重の塔について”

魚津社寺工務店 工事部長

水口 春夫氏



全国に塔というものが
たくさんありますが、ま
ず第一に塔とは何だろ
うか。簡単に説明しま
すと、インドに生まれ、
仏教を始められた御
釈迦様の舍利を納めた
もの、いわゆるお墓で
あります。日本風に言
うと古墳です。

この建築物が中国へ伝わり、構造物となり、朝鮮を通り日本へ伝わりました。さて、日本で最初に塔が建てられ歴史上明らかになっているのは、奈良の飛鳥寺の塔ですが、現存するのは奈良法隆寺の五重の塔で、今回日泰寺に建った塔とはほぼ同じ大きさです。その後仏教の広まりと同じくして日本各地に塔が建てられ現在に至っております。

次に塔というものは、第一に古来は地中3cm位の所に据えられた土台石に立てられて掘立式になっていたのですが、現存している塔は全て地上より又は1階の天井上より最上階の屋根を通り相輪へと延びています。

第二に、各層の柱は各階ごとに短い柱で貫や横材で固められています。各階ごとのブロックが三重又は五重と重なっている積木のようだと考えてもらえば良いでしょう。

時代の流れと共に構造の方法も変化が見られます。積上げ工法、やぐら組工法、吊り下げ工法等があります。積上げ工法は古来からの方法、やぐら組工法は室町時代に考え出された方法で貫をたくさん使う方法です。この両方が日本の塔のほとんどの構造です。

日光と上野の五重塔はこの方法に心柱だけが最上階よりクサリで吊り下げて心柱を立てている方法です。木材の縮みを吸収するのが目的です。

さて、今回日泰寺さんの五重塔工事について、お話しします。

寺院では七堂伽藍の中でも塔は大切な建物です。仏教伝来時の伽藍配置ですと、寺院の中心に有り、一番大切な物でしたが、時代の流れと共に考え方、教えの位置づけが変わってきましたが、大切なものでとても目に付くものです。塔は見上げる、ながめる、と言われます様に美しさ、バランスが一番大切な建物です。

参考にした建物は、法隆寺五重塔と、山口県瑠璃光寺の五重塔です。

設計図が出来上がると、今度は材料、とり

わけ木材の調達です。木材は、いろんな種類があります。建物によって使う場所によってどんな材料を使うかが問題です。今回、五重塔という事で「桧」と決めました。

今まで私共が塔の建築やいろいろな建物で感じた事、又は行って来た事を述べましたが、「木」は古くなればなる程、「角」が取れて丸くなります。やさしさ、ぬくもりが感じられます。こんなすばらしい「木」というものを、できるだけ長く持たせるためにいろんな工夫も行っています。今回の日泰寺五重塔と時を同じくして名古屋の新名所となっている名古屋能楽堂も大変苦勞した作品です。現代風の建物の内に古来よりの木造の文化を入れる考え方です。木造単体の建物もむずかしいものですが、現代建築の中への木造建築も大変むずかしいものです。

「木」の良さを知ってもらうために、又先人達が残してくれた「木」の文化を残すために日々苦勞しておりますが、私自身は「木」が大好きです。しかし何よりうれしいのは若い人達が跡に付いて来てくれている事です。心強い見方です。「樹」は、1300年もの長い間、今も建物に残って耐えているのです。若い人にもっと「樹」を知ってほしいです。

短い時間ですが、以上が塔についての私自身が思っている事、考えている事を述べてみました。

◇例会変更のお知らせ

- | | |
|---------|--|
| 名古屋南RC | 6/25(水)ユッタリ例会の為、名古屋観光ホテルにて |
| 名古屋名駅RC | 6/25(水)夜間例会の為、名鉄ニューグランドホテルにて |
| 名古屋西RC | 6/26(木)I.D.M.の為、キャッスルプラザにて17時半より |
| 名古屋大須RC | 6/26(木)親睦例会の為、6/25(水)プリンセスガーデンホテルにて18時より |
| 名古屋瑞穂RC | 6/26(木)夜間例会の為、18時 |
| 名古屋空港RC | 6/30(月)I.D.M.の為、キャッスルプラザにて18時より |
| 名古屋中RC | 6/30(月)親睦例会の為、名古屋観光ホテルにて18時より |

◇6月度現・次年度理事会議題

現理事会審議事項

1. 新入会員候補者承認の件
2. 退会届けの件
3. 1996～97年度決算(案)報告の件

現・次年度審議事項

1. 事務局次年度昇給・賞与の件

次年度審議事項

1. 会報の件

◇次回例会(6月24日)

友愛の日(立食)